

過去 20 年間にファイナンシャル・インクルージョン(金融包摂)に起こった5つの大きな変化とは？

辻 一人

CGAP（貧困者を助ける協議会）経営委員会委員長

2015年11月23日

※ 本稿は、CGAP の HP に掲載のブログ文 “The Five Most Dramatic Changes in 20 Years of Financial Inclusion”¹ を、本人の了解を得て翻訳したものです。

20 年前に CGAP（貧困者を助ける協議会）が発足して以降、ファイナンシャル・インクルージョンの領域は大きく進展してきている。私の考えでは、5つの変化が特筆に値する。

1. 多様化

20 年前、貧しい人たちに必要な金融商品は、マイクロクレジット(融資)だけだと考えられていたが、今では貯蓄、支払、保険、送金、リース、そしてクレジットにいたるまで多様化している。並行して、貧しい人々への金融サービス提供機関（FSP）も、信用貸し専門タイプのマイクロファイナンス機関（MFI）から、預金受入タイプの金融機関 MFI や商業銀行、協同組合、通信会社、支払会社、保険会社などに広がってきた。FSP の法的形態と法令上の枠組みも多様化している。加えて、現在では、金融インフラ・サービス提供企業や投資家も関与するようになってきている。

2. デジタル化

技術革新によるサービス提供のデジタル化が、国によってスピードは異なるものの、世界の多くの地域で急速に進んでいる。人里離れた、あるいは人口の少ない地域の貧しい顧客に、便利で費用対効果のある方法でマイクロ金融サービスを届けるというひとつの大きな課題が、これで解決しつつある。また、デジタル化は、商品の性質にも影響を与えている。今後、テクノロジーによって、私たちは未知の領域に足を踏み入れることになるかもしれない。だからこそ、今後、消費者保護が非常に重要な課題となっていく

¹ <http://www.cgap.org/blog/five-most-dramatic-changes-20-years-financial-inclusion>

だろう。

3. 多くの証拠とデータが入手可能に

20年前、たくさんの「素敵な」逸話が伝えられたことによって、貧しい人々に小さな金額の融資を与えようという機運が広まっていった。特に対象となったのは貧しい女性、その多くが小さな商売に従事している女性たちだった。信用貸しのリスクは、地域の社会資本を頼りに処理された。以来、かなり厳密な評価、特にランダム化比較試験(RCT)が行われ、家庭や小規模ビジネス向けの信用貸し、預貯金、支払い、保険、その他のサービスの効果測定を行って来たが、その結果は一様ではない。金融サービスは、消費の平等化や非常時の緊急対策、将来的リスクへの備え、将来の資産づくりへの投資、暮らしの改善、そして福祉の向上と、多様な目的に利用されている。同時に、金融アクセスの拡大とFSPの金融面・社会面の実績とに関する、より多くのデータと基準が、今では入手出来るようになってきている。しかし、サービス利用の質や顧客への価値、そして行動変容へのインパクトをどのように測るかは、さらなる今後の課題として残されている。

4. 誰も取り残さない

極貧の人たちはこれまで、マイクロクレジット・サービスの受益者と考えられてこなかった。ところが、CGAPによって試験的に行われた「卒業モデル」や社会保障政策との結びつきの強化により、今では極貧層もさまざまなマイクロ金融サービスの顧客となることができる。貧しい農民からもっとも軽んじられてきた人々まで、弱者や障害者、男性であろうと女性であろうと、老いも若きも、誰ひとりとして、信頼でき手頃で便利でまっとうな金融サービスから排除されてはならない。このことは、いまや基本的人権のひとつと考えられている。ビジネスの顧客こそが中心になるべきだ。彼らは慈善の受益者ではない。長い道のりになるかもしれないが、人がどこに暮らそうと、これは成し遂げられねばならない。

5. 国際開発の一端を担うファイナンシャル・インクルージョン

過去にマイクロクレジットは単独で語られることが多かったが、現在では、それはファイナンシャル・インクルージョンという考えに進展し、国単位、そして世界的な開発政策やアジェンダ、そして世界金融の枠組みに欠かせないものとなっている。気をつけなければならないのは、これ自体が目標なのではなく、電気や水道など他の開発サービスや、世界中の貧しい人々の暮らしの改善、包摂的な成長、格差の是正、金融、経済、社会的な安定、すべての人のための持続可能な開発といった目標を達成するための重要

な手段であることだ。

これらの大きな変化は、公的な環境整備支援を受ける形で進展した民間金融市場の革新的な改革によって可能になった。すべての人のための完全なファイナンシャル・インクルージョンに向けた課題と、気候変動や収入・ジェンダー格差といった巨大で緊急の開発問題や、紛争や人道的危機といった課題に直面している私たちは、さらなる改革に拍車をかけ、市場関係者の行動変革を奨励しなければならない。そうすれば、市場システムが貧しい人々や弱者のためによりよく機能するようになる。豊富な流動資産が大半の金融市場に存在するなか、適切な公共政策によって貧しい人々の生産活動と消費拡大のために資金を活用することが可能である。将来的には、信頼出来る責任ある金融市場の発展を確実にすることが、フロントランナーである CGAP のような国際的な公共財の役割であり続けるだろう。

(註)卒業モデルとは、貧困層の中でも特に極貧の人々を対象に、食料(補助金)の供給、生計向上の為の訓練、家畜やマシン等の資産供与、公式な金融口座への貯蓄増進などを組合せ、融資を受けられるレベルへの「卒業」を目指すもの。社会保障政策と金融包摂政策との接点と言える。詳細は、CGAP のウェブサイトを参照。